

(22) アーユルヴェーダ薬草混合物「アムリット5」が加齢性の視覚判別能力に及ぼす影響

文献名

International Journal of Psychosomatics, Vol.37, Nos.1-4, pp.25-29, 1990.

著者

P. Gelderloos, SScD, H.H.B. Ahlstrom, MS, D.W. Orme-Johnson, PhD, D.K. Robinson, MS, R.K. Wallace, PhD, and J.L. Glaser, MD.

実施場所

Maharishi University of Management, Fairfield, IA (マハリシ経営大学、アイオワ州フェアフィールド)

要約

古代の自然医療体系 - アーユルヴェーダ - では、認知機能を高め、病気を予防し、老化の有害な影響を軽減する特定の薬草調合剤を処方している。年齢に相関する注意力を要する作業に対して、アーユルヴェーダの薬草混合物アムリット5が及ぼす影響を試験するために、二重盲検法を用いた研究を行った。35歳以上の48人を無作為に2群に分け、一方は1日2回6週間にわたりアムリット5錠剤を投与される群、他方はまったく同じやり方で偽錠剤を与えるプラシーボ群とした。視覚判別作業は、タキストスコープに表示された記号"x"の配列内での刺激"v"の正確な位置を識別する作業によった。アムリット5群は、対照群と比較して、処置開始3週間および6週間後にこの作業能力の有意な向上を示した。この能力は年齢との相関性が高く、高い成績を示すには自由に流れる均等な注意力と一点への集中力とが明白に要求される。したがって、アムリット5は集中力ないし注意力を高め、それにより老化が認知力に及ぼす悪影響を逆転させると結論することができる。